

先日、福島支部中学校体育大会が行われた。各競技ともに、感染症対策を徹底した中での開催となった。各中学校は、昨年は実施できなかったこの大会を、今年は何とか無事に行うことができるよう、様々な配慮をしてきたはずである。その上で、ようやく開催に至ったわけである。

大会には、必ず運営する側の人員が必要である。あまり知られていないかもしれないが、中体連の場合、支部大会と地区大会は、運営する側専門の人員はいない。各中学校の先生方が、生徒を引率し、試合中のアドバイス等を行う。ここまでは理解できる。その他にも、専門部と呼ばれる先生方を中心に、役割分担をしながら大会の運営も担っているのである。すべてを先生方で行っているわけである。

ということは、大会本部にいるような先生方は、自分の学校の試合の際に、ベンチに入れなかったりすることがあるわけである。特に、専門部長と専門副部長という役割を担っている方は、ほとんど自分の学校の試合に行けないということも起こりうる。

私も、昔、ソフトテニス競技の専門副部長や専門部長を務めていたことがある。だから、専門部の先生方の心情を察することはできる。今回、ソフトテニス競技に大会委員長という立場で参加した。数えたら14年ぶりであった。2日間、すぐそばで、専門部長や専門副部長の先生方の献身的な働きを見させていただくこととなった。おかげで、ソフトテニス競技は、天候にも恵まれ、無事に終了することができた。

今回は、コロナ対応ということで、開会式も閉会式もなかった。大会委員長の出番は、監督会議でのあいさつ、そして表彰であった。もし通常のように閉会式があれば、あいさつの中で、ぜひ専門部の先生方の労をねぎらいたかった。そう思わせてもらえる見事な働きぶり、運営であった。

内心は、運営をしながらも、自分のチームのことが気になって仕方がないはずである。3年生が出場する個人戦、そして団体戦、今勝っているのか負けているのか、戦局はどうなっているのかと居ても立っても居られないはずである。

そういえば、私が専門部長のときには、個人戦も団体戦も試合の途中経過を1ゲームが終わるたびに、本部まで1年生に報告させていた。1年生は、正しく私に報告しなければならないため、必死に試合を見るようになる。自ずと、ルールも理解するようになる。

私はというと、途中経過と対戦相手から判断して「これはまずい」と思ったときには、突如としてベンチに姿を現す。それだけで、我に返ったように本来の調子を取り戻して挽回していくペアもいる。相手にやられてリードされている場合には、その対応策をアドバイスする。そして、こちらのペースになったことを見届けて本部に戻る。そもそもリードされると、私がやってくるのがわかっているんで、みんな必死なのである。

今回の大会での専門部長さんと副部長さんの運営ぶりは実に見事であった。昔の私とは雲泥の差である。皆さん、人間ができています。あれだけ忙しいにもかかわらず、自分の学校の生徒に対しては、それを見せない。昔の私にはできなかったことである。

専門部のように大会を運営していても、文句を言われることはあっても、褒めてもらえることは少ない。私は、大会委員長としても個人的にも先生方に感謝の気持ちを伝えたい。先生方の心意気に感謝をしながらも、昔の自分を振り返り、反省させられる2日間となった。本日は、県北地区大会が行われる。また、先生方の献身的な働きが大会を支える日となる。